

## 平成23年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：環境中に放出された放射能に関する研究 英文：Evaluation of the erupted radioactivities into the environment.
研究代表者	大橋 英雄（東京海洋大学）
参加研究者	兼保 直樹（産業技術総合研究所 主任研究員） 鈴木 芙美恵（東京海洋大 技術補佐員） 佐野 有司、蒲生 俊敬、白井 厚太郎（大気海洋研究所）
研究成果概要	<p>研究成果概要</p> <p>1. はじめに</p> <p>昨年3月11日に発生した地震・津波により引き起こされた福島第一原子力発電所の事故で、環境中に少なからぬ量の放射性物質が放出された。これらのうち、降雨・大気・土壌・海水中に含まれる放射能を、なるべく多くの地点で定期的にサンプリングを行い計測していくことは、研究者間のみならず社会的にも必要であると考えます。</p> <p>2. 方法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・海洋大グループは福島県川俣町教育委員会の協力により、3ヶ月おきに町内の6ヶ所の小・中学校のプールの水を採取し、その放射能を測定した。</li><li>・産総研はローボリウムエアサンプラーで大気を吸引したフィルターを飼料として用いた。</li><li>・大気海洋研は太平洋上で採取したプランクトン試料である。</li></ul> <p>3. 結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・海洋大グループは3回サンプリングを行ったが、試料の均一性に問題があり、試料作製方法の改善を検討している。</li><li>・産総研は今回の研究で最も成果が上がったものであり、<i>Environmental Science &amp; Technology</i>誌にSulfate aerosol as a potential transport medium of radiocesium from the Fukushima nuclear accident としてWeb版では4月25日に発表された。</li><li>・海洋研グループは柏地下実験室以外で測定可能な検出器を探している。</li></ul>
整理番号	